

学校推薦型選抜試験問題

小論文（800字程度、60分）

（健康栄養学専攻）

【問題】

厚生労働省の「令和5年 国民健康・栄養調査」によると、20歳以上の日本人のうち、この1年間に居住地域（学校や職場を除く）で友人や知人と週1回程度食事を共にした（共食した）人の割合は、以下の図の通りである。

一方、厚生労働省の「健康日本21（第三次）」では、地域などで共食している人の割合の目標値を30%と定めている。

以上の内容を踏まえ、以下の設問に答えなさい。

※英数字・小数点・記号などもすべて「1マスに1文字」で記入すること。

問1 週1回程度食事を共にした人の割合が20歳代で最も高い理由について、あなたの考えを述べよ。（400字以内）

問2 日本人の共食している人の割合を、「健康日本21（第三次）」で示している共食している人の割合の目標値以上にするための方法について、あなたの考えを述べよ。（400字以内）

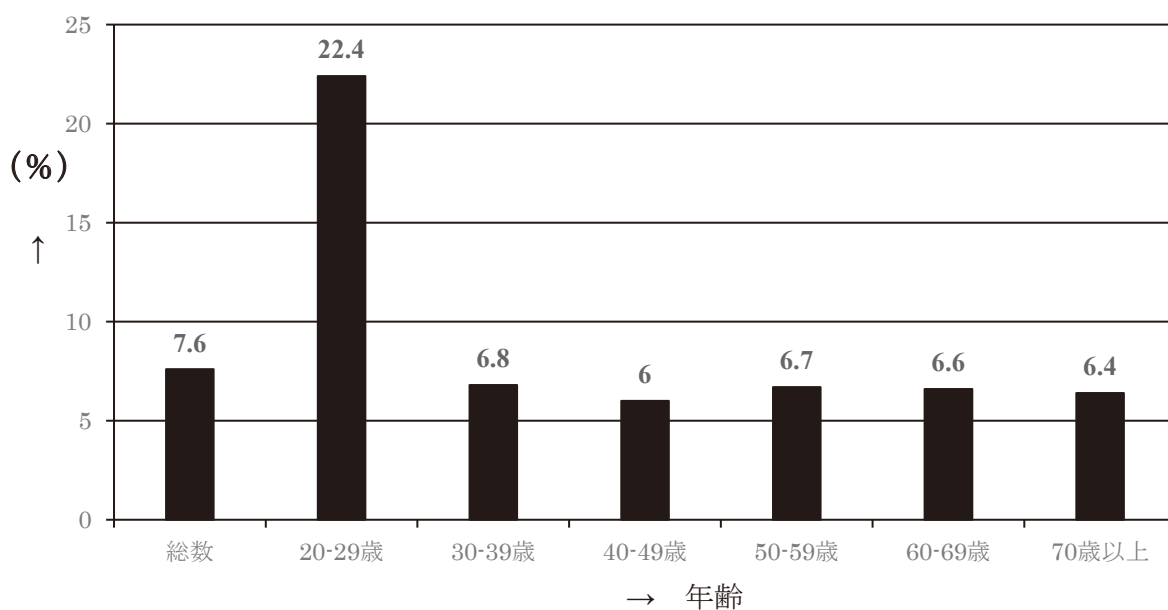


図 地域における友人・知人との共食の頻度

出典：厚生労働省「令和5年 国民健康・栄養調査」（令和5年11月実施）

【出題の意図】

厚生労働省の「健康日本 21」目標値と共食の意味を様々な領域から充分理解し年代別による共食の頻度のグラフを読み取り把握する。各年代別の共食震度を個々に観ながら全体を統合しながら共食について分析・考察する。

【評価の観点】

グラフを基に各年代と共食を関連づけているか。

一方的な見方に留まらず統合的な分析になっているか。その考察がグラフと現実の社会と合致し論理的になっている。